

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.814 2022

2022年3月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



OPINION

自分と社会の健康を守る リスクコミュニケーション

医師・ヘルスプロモーション推進センター 岩室 紳也

新型コロナウイルス感染症の第6波が来ている今こそ、「ウイルスが、どこから、どこへ、どうやって」という感染経路対策の原点に立ち返って考えてみましょう。ウイルスは感染している人の口から、感染する人の目、鼻、口、のど、肺へ、飛沫、エアロゾルとして、落下、付着を経て感染します。

感染のリスクを減らすためにできることは無数です。しかし「このキャンプを成功させるためにどうしたらいいか」と目の前の機会に着目し、いろいろなものが漏れ落ちてしまいます。日本人はついゼロリスクを目指し、やってくるつもりになり自分勝手な安心感を求めます。しかし、大切なのはリスクリダクション、つまり「できる人が、できることを、できる時に、できるように」することではないでしょうか。ゼロ・コロナを目指すならば、方法は隔離しかありません。世界との交流を一切断ち、外出をしたら、2週間は家族とも一切接触しない。もちろん乳児も、介護の必要な高齢者もです。これは「ありえない」ことです。どこで妥協点を見つけるかが非常に重要になります。

そこで大事なのが「リスクコミュニケーション」。コミュニケーションの基本とは、「分かちあうこと、共有すること」です。スタッフ同士、また会員のみならずいろいろな情報を伝えあい、意見を交換し、相互の理解を得ましょう。中にはゼロリスクを目指す人がいるでしょう。そのことも否定せず、コミュニケーションを通してお互いの抱えるリスクについて確認し合い、相互に理解し、信頼関係をつくっていくことが求められているのです。

今、新型コロナウイルス予防は、マスク、消毒、密・濃厚接触の回避、まん延防止等重点措置、検査が「正解」とされていますが、それらがどの感染経路を予防するのか、検査の限界が何かなど、もっと細かく考える必要があります。「正解依存症」にならないようにしましょう。「正解依存症」とは、自分なりの正解を見つけるとその正解を疑うことができないだけでなく、その正解を他人にも押し付け、自分なりの正解以外は受け付けられない、考えられない病んだ状態なのです。

行動自粛が繰り返され、誰もが不安と喪失感を抱える時代に、こころのケアの基本となるのは対面で話すことです。「人は話すことで癒される」はアメリカの心理学者カール・ロジャーズの言葉です。他愛ないことでも話し、コミュニケーションをとることが、こころのケアの意味でもリスクリダクションになります。積極的に周りの人々とコミュニケーションをとり、人と人のつながりによって培われるこころの健康も養いましょう。

日本YMCA研究所主催：新型コロナウイルス感染症対策とYMCAのプログラム（3）
—第6波に対して私たちが気をつけること—（2022年1月28日開催）より

（横浜YMCA会員）

日本YMCA中期計画を語ろう

1 Positive well-being

Positive well-beingを提唱し、「みつかる。つながる。よくなっていく。」の体験提供を通して全人一貫教育の価値を最大化し、社会の健康を目指す。

Positive well-beingの意味は身体的にも精神的にも、霊的にも、そして社会的にも満たされた状態です。そこには、「わたし」の健康と「わたしたち」の健康、そして社会の健康があり、一人でするものではありません。他人ごとを自分ごとにして行動すること、そして、他人ごとを自分ごとにする力を育てていくこと、人と人との連帯の中で、人間性を回復することが必要です。

つながり、出会い、コミュニティを大切にしてきたYMCAはすでに「見つけた」「つながった」「良くなった」という、経験で満ちています。分断され、閉塞感に満ちた間を経験しているわたしたちだからこそ、いま、「わたしたち」がより良く生きていくために、ネットワークの力で、どう物語をつくっていくのかを発揮するときです。（中期計画策定委員長 中道 基夫）

YMCA PINK SHIRT DAY

YMCA PINK SHIRT DAY 2022

歩いてひろげるピンクシャツデー ピンクシャツデー バーチャル・ウォーキング

YMCAせとうちでは、昨年より「ピンクシャツデーバーチャル・ウォーキング」を実施しています。一人ひとりが歩くことでいじめに反対する意思を示し、いじめられている人と連帯する思いを表す取り組みです。その一步一步を積み重ね、みんなで世界一周40,000kmを目指します。

今年はスキーキャンプでお世話になっているコーチたちもバーチャル・ウォーキングに協力してくださいました。野外活動やキャンプ、保育園やアフタースクールなど、YMCAに集う子どもから大人まで、どこでも誰でも取り組むことができ、「いじめ」に対して思いをめぐらせています。

子どもたちは「いじめに直面した時に、自分たちにできることは何だろう?」そんな思いを伝え合いながら、「歩く」ことで行動しています。この期間だけいじめについて考えるのではなく、「エブリデイピンクシャツデー」の気持ちで、目の前の誰かに寄り添える人であってほしい。そしてピンクシャツデーの輪が子どもたち自身の行動でどんどん広がっていくことを願っています。

YMCAせとうち 市川 愛



ピンクシャツデーはいじめを自分ごととして考える日 ピンクシャツデー手づくり絵本

ピンクシャツデーに取り組み始めたころ、キッズクラブに集うお友だち同士の諍い(いさか)が起らないよう、分かりやすく視覚的に伝える方法はないかと考えて作られたのがこの絵本です。ピンクシャツデー運動のきっかけとなったカナダでの出来事をまとめたもので、スタッフが作成しました。リーダーが絵を描いているとすぐに子どもたちが寄ってきて「何でピンクばかりなの」「どうして髪の毛の色や目の色を変えるの」と質問してきます。その意味を丁寧に話しながら絵本は出来上がりました。完成までの過程を見ていた子どもたちは、より深くこの取り組みに興味をもち、2月の最終水曜日は「ピンクのシャツを着る日」だけではなく、「いじめを自分ごととして捉えて、どう行動すべきかを話し合う」日になりました。

私たちリーダーは、日々の保育が自分自身の存在の大切さ、そして同様に他者の存在の大切さも体験できる場となるよう子どもたちと向き合います。YMCAでの時間が種となって、家庭・学校・社会で豊かな実を結ぶことを心から願っています。

埼玉YMCA 川久保 祐美



京都YMCAと仁川YMCA、台中YMCA、台南YMCAの4つのYMCAから14~17歳のユース50名が参加し、「3YMCAユース交流プログラム」がオンラインで行われました。

各YMCAの活動紹介のほか、互いの日常生活や歴史文化について紹介し合い、「コロナが落ち着いたなら何をしたい?」「おすすめグルメは?」「日本ではBTSはどれくらい人気?」など話がはずみ、言葉の壁に緊張していた参加者もうれしそうに交流していました。

ユースは文化や芸術を共通言語に、海外のユースと楽しみつながらあえる喜びを実感しています。「世界にはコロナや温暖化など大きな問題がありますが、

3YMCAユース交流プログラム Three YMCA youth exchange program



私はBTSの音楽で幸せを感じます。世界の人々が一緒にダンスをしたり、歌ったり、楽しんでいる動画を見ると世界はつながっていると感じます。コロナ禍でも他国の人々と交流する機会があることはすごくうれしかったし、思い出になりました。」とスピーチを締めくくりました。

活動が制限されるいま、ユースたちにとって国際交流を体験するかけがえのない時間になりました。オンラインも上手に活用しながら、これからもユースとともに

世界の平和のために活動できることを祈っています。

京都YMCA 藤尾 実

2021年度 日本YMCAユースボランティア認証者

今年度は17YMCAから318人がYMCAの担い手として仲間に加わりました。

1994年から認証制度開始。これまでの認証者総数は17,987名

〈YMCAボランティアの定義〉YMCAのボランティアとは、日本YMCA基本原則に示されている使命の実現のために、YMCAの行うさまざまな活動や組織の運営、また、YMCAが他団体と協働して行う諸活動に①自らの自由な意志によって(自発性)②主体的に、責任をもって参加し(主体性、責任性)③金銭や名誉などの報いを目的とせず(無償性)④人々や社会のために働き(利他性、社会性)⑤人々と痛みや喜びを分かち合い(相互性)⑥継続的に(継続性)喜んで自らの時間や労力、知識や能力、金銭などを提供する者をいう。

北海道YMCA	佐野 未歩	島田 珠里	神明 和希	上杉 左智恵	星井 愛	高思 琦	子安 七築	柳川 莉沙	藤川 愛	古林 佳苗	高橋 優心
	鈴木 成葉	平田 蒼衣	池田 健太郎	長内 翔太	引地 彩夏	首藤 大和	佐賀 美友	田中 結	那須 遥佳	高橋 宗一郎	町田 姫子
仙台YMCA	石井 元	菅野 さくら	菅野 さくら	田中 雅浩	鳴瀧 六花	伊藤 久美	石田 帆花	秋田 果実	川端 泰子	寺本 未祐	木下 七海
	檜木 葉奈	遠藤 優太	萩原 すみれ	柳沼 優太	秋山 侑斗	澤成 光奈	成田 隆史郎	高橋 舞	井関 美潮	野川 和敬	松野 紀歩
	門間 温大	檜野 七夏	飯塚 溪太	伊藤 大晃	小林 夕鶴	小林 夕鶴	福田 華菜	五十 榎 梓	荒島 陽	畑 日菜子	久保 木里奈
	祖母 浦葵	相原 聖大	屋代 宇慶	梅田 実歩	上野 由惟	梅田 実歩	本山 美樹	西森 大夢	吉谷 仁恵	秀島 杏奈	田中 愛梨
	風祭 紘弥	高橋 敬志	宮崎 澄佳	有村 拳	佐枝 心斗	有村 拳	村松 美羽	大阪YMCA	神戸YMCA	藤橋 勇人	大東 玄暉
	西村 佑樹	安藤 友季乃	大和 英理加	安田 愛紀	高井 陽一郎	安田 愛紀	青山 梨沙	高松 優奈	高松 優奈	山口 耀哉	平田 裕作
	大沼 拓朗	菊間 彩加	福島 芽衣	山口 諒太	鈴木 萌花	山口 諒太	千田 和	足立 美里	足立 美里	吉家 颯斗	佐藤 友哉
	佐々木 優大	中島 杏珠	北澤 佳子	橋本 拓郎	橋本 拓郎	橋本 拓郎	上野 由貴	山本 茉央	山本 茉央	姫路YMCA	福岡YMCA
	大沼 拓朗	中島 杏珠	柴沼 琴子	大澤 悠馬	橋本 拓郎	橋本 拓郎	金沢 昇衣	北村 昌考	北村 昌考	小松 未来	松本 淳史
とちぎYMCA	田辺 純	石川 陸	守屋 厚志	小野 悠翔	江尻 和馬	小野 悠翔	濱田 莉帆	外山 智貴	水津 歌菜	下垣 茜	池松 瑠月
	長 あすみ	犬飼 絢香	小嶋 隆寛	細谷 翼	實方 勇真	細谷 翼	灰方 美晴	森本 紗也香	末永 ゆう	永岡 玲奈	福山 りな
	依田 真由子	小嶋 隆寛	小嶋 隆寛	村上 裕哉	下澤 航太	村上 裕哉	植苗 琴音	植苗 琴音	村上 菜々子	森本 杏織	宇都 亜利紗
	滝澤 梨央	林 美有	山浦 乃綾	高階 理佳	高階 理佳	高階 理佳	青山 倅千	岸 瑚満智	山本 真矢奈	山根 瑠華	田嶋 ずずか
	梅沢 由愛	三浦 大知	池田 美貴	國分 津由美	小林 咲桜璃	國分 津由美	龍田 真歩	安井 日菜	河村 真衣	山本 実侑	甲斐田 美咲
	若井 優花	大澤 愛季	塚本 翔太	筆本 菖菜	藤原 里珠	筆本 菖菜	白瀬 ゆかり	岩橋 麻菜美	五関 千晴	YMCAせとうち	鬼海 展行
	小林 優希	青柳 千洋	今野 咲良	沼田 翔	森 朱音	沼田 翔	北畑 琉斗	杉村 悠太	山崎 会史加	村上 倅史	養原 菜月
	渡邊 琴莉	櫻井 隼至	岩井 祐紀	久野 楓	久野 楓	久野 楓	二宮 陽子	奥村 真由子	黒崎 優菜	津郷 由妃乃	井手 悠真
	山中 愛実	高野 捺芽	茂木 千秋	星野 真輝	星野 真輝	星野 真輝	小宮 愛梨	奥村 真由子	山口 誠太	藤澤 りん花	熊本YMCA
	加藤 愛理	小椋 捺未	今村 海里	鎮守 匠海	殿岡 晴	鎮守 匠海	中山 夢香	坂本 恭右	足立 ジェラルド	岡部 優希	田尻 葉菜
	修理 恵実	廣岡 裕也	田村 百花	山田 将主	佐藤 元	山田 将主	新田 七見	池田 弥礼	池田 尚史	岡本 結衣	今村 大夢
	牧野 友香	中村 涼人	松本 悟	飯沼 友唯	飯沼 友唯	飯沼 友唯	中井 朝葉	西口 侑吾	岩崎 由芽	中名 桃子	山田 陽翔
	関口 晴陽	東京YMCA	平沼 ケン	今村 鍊	今村 鍊	今村 鍊	森 克斗	杉村 マキ	上野 梨花子	丹下 鈴香	山田 大耀
千葉YMCA	杉崎 里紗	千葉 涼緒花	小林 楓実	鈴木 達也	鈴木 達也	鈴木 達也	菅野 駿翔	堀田 寛人	大守 航太	大賀 なずな	星原 花音
	久保田 稀恵	小淵 和香子	関口 莉歩	長内 陽音	長内 陽音	長内 陽音	奈良YMCA	近藤 穂	木村 清華	松坂 実侑	大村 谷 芳
	岡部 まりん	小嶋 紗生	石橋 耕輝	矢部 真奈美	矢部 真奈美	矢部 真奈美	米澤 奈海	白川 夏希	金 翔嗣	守安 天菜	野崎 俊一
	種村 瞬	山崎 夏実	宮本 萌	飯田 穂香	飯田 穂香	飯田 穂香	前川 琴風	宮前 瞳	久保 ミッシェル	増成 咲頼	